研究発表

第 18 回動物介在教育・療法学会学術大会（2025.8.30.）

日本語版動物への共感性尺度（ETA-J）の作成

野瀬　出 *

日本獣医生命科学大学 比較発達心理学研究室

Development of the Japanese version of the empathy toward animals scale (ETA-J)

Nose Izuru*

Laboratory of Comparative Developmental Psychology, Nippon Veterinary and Life Science University

目的

近年，人間が動物に対して示す共感性の役割に注目が集まっている。例えば，野生動物に対する個体識別および共感性が環境保全行動に関連していることや（Smith et al., 2024），ペットへの愛着が人間に対する向社会的態度を促進する際の媒介として動物への共感性が機能している可能性が示されている（Faner et al., 2024）。これらのメカニズムを解明するには，動物への共感性を測定するための尺度が必要である。Dias Martins et al.（2025）が開発した動物への共感性尺度（Empathy Toward Animals scale: ETA）は，動物に向けられた共感性の二つの側面（共感的関心・視点取得）を測定する尺度である。この尺度は Davis（1983）による人間への共感性尺度（Interpersonal Reactivity Index: IRI）を動物に対して転用したものであり，IRI については既に日本語版（IRI-J）が作成されている（日道他，2017）。本研究では ETA の日本語版を作成し，その信頼性および妥当性を検討することを目的とする。

方法

対象　日本に在住している 20 歳～ 65 歳の成人を対象とした。調査会社（Freeasy，アイブリッジ株式会社）に依頼し，400 名分（男性 200 名，女性 200 名，平均年齢 43.5 歳）のデータを収集した。参加者には Web 画面上で調査内容について説明し，参加の承諾を得た。調査は匿名で実施し，個人が特定可能な情報は収集しなかった。調査は 2 回に分けて実施し，調査 1 の実施期間は 2025 年 6 月 3 日～ 6 日，調査 2 は 2025 年 6 月 30 日～ 7 月 7 日であった。

質問票　ETA の原著者に許可を得て，著者が ETA の翻訳を行った。翻訳の際には IRI-J を参考にした。日本語に翻訳された各項目について，翻訳会社（Editage，カクタス･コミュニケーションズ株式会社）に依頼し，英語への再翻訳，および原文と再翻訳の意味内容が等価であることの確認を行った（以下，日本語版 ETA を ETA-J とする）。

（調査 1）ETA-J について，5 段階による評定を求めた（1 全く当てはまらない～ 5 非常によく当てはまる）。人間に対する共感性との関連について検討するため IRI-J（共感的関心，視点取得，個人的苦痛，想像性）を実施した（5 段階評定）。さらに，動物（犬，猫，ウサギ等）の飼育経験の有無，動物保護ボランティアへの参加経験の有無，動物保護活動への寄付経験の有無，捕獲された野犬および熊の殺処分に関する態度，動物好きの程度（7 段階評定），およびデモグラフィック特性（性別，年齢，居住地等）に関する項目について回答を求めた。

（調査 2）調査 1 の回答者に対して ETA-J を再実施した。また，動物に対する態度類型（石田他，2004）および日本版擬人化尺度（上出他，2017）を実施した。

結果と考察

不適切だと判断された回答を除外し，調査 1 では 281 名分，調査 2 では 236 名分のデータを分析対象とした。Dias Martins et al.（2025）の 2 因子モデルについて確認的因子分析を実施したが，適合度は低かった（CFI ＝ .893，RMSEA ＝ .134，SRMR ＝ .081）。そこで IRI-J の作成手順（日道他，2017）を参考に，因子とは無相関な逆転項目のワーディング効果を方法因子として仮定した CTCM モデル（Correlated

* 連絡先：inose@nvlu.ac.jp

表 1　各経験の有無別の ETA-J 平均得点

尺度	動物飼育		動物保護ボランティア		動物保護活動への寄付	
	経験有	経験無	経験有	経験無	経験有	経験無
ETA-J：EC	**3.63**	3.04	**3.57**	3.47	**3.91**	3.38
ETA-J：PT	**3.07**	2.59	**3.34**	2.91	**3.40**	2.84

表 2　ETA-J 得点と関連尺度得点との相関係数

尺度	IRI-J：EC	IRI-J：PT	類型：家族	類型：倫理	類型：実用	類型：無関心
ETA-J：EC	**.640**	.473	**.503**	**.478**	**-.492**	-.514
ETA-J：PT	.480	**.567**	.406	.405	-.371	**-.555**

EC：共感的関心、PT：視点取得

traits-correlated methods model; Eid, 2000）による確証的因子分析を実施した。その結果，適合度は改善され（CFI = .983, RMSEA = .056, SRMR = .035），先行研究と同様の 2 因子構造を維持していることが確認できた。

内的整合性について検討するため，クロンバックの α 係数を算出した結果，共感的関心（α = .854），視点取得（α = .860）ともに十分な値を示した。また再検査信頼性について検討するため，1 回目と 2 回目の得点間の相関係数を算出した結果，共感的関心（r = .835），視点取得（r = .801）ともに十分であり，ETA-J の信頼性が認められた。

基準関連妥当性（併存的妥当性）について検討するため，動物飼育経験，動物保護ボランティアへの参加経験，動物保護活動への寄付経験の有無別の得点を算出した。それぞれの経験を有していたほうが ETA-J 得点が高くなっていた（表 1）。構成概念妥当性（収束的妥当性）について検討するため，IRI-J（共感的関心，視点取得）および動物に対する態度類型（家族，倫理，実用，否定）の各下位得点との相関係数を算出した（表 2）。関連が想定される項目間で中程度の相関が認められたことから，おおむね妥当性が認められた。

今後は，動物介在介入場面において ETA-J を実施し，動物との相互作用や人間に対する向社会的行動との関連性について検討していく。

利益相反

本研究に関して開示すべき利益相反はない。

文献

Dias Martins, C., Vergara, R. C., & Khoury, B. (2025). Internal and external validation of the empathy toward animals scale. Anthrozoös, 38, 131–152.